

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている やや良く なっている	高級レストラン（専務）	来客数の動き	・鹿児島の新幹線開業で、まだまだ来客数、売上とも増えている。
		スーパー（店長）	競争相手の様子	・競合大型店が出店したが、客数も増加し、客の買物自体は減っていない。やや良い状況である。
		スーパー（店長）	単価の動き	・食料品と住居関連は前年比110%である。衣料品は、夏物衣料の売行きが悪く、秋物衣料も仕掛けが遅かったため全減し、前年比78%という悪さである。トータルでは、前年比102～103%で推移しており、2～3か月前に比べ大分改善している。
		スーパー（店長）	単価の動き	・今までは客数が多く、単価が下落するという傾向がみられた。しかし今月は、紳士服のアウトターや子供服で、買上点数に加え、久しぶりに単価が上がっている。
		コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・台風の影響で離島への販売が3日間止まったにもかかわらず、量販店向けが前年比9.7%増、コンビニ向けが4.3%増、ローカルスーパー向けが3.4%増となり、各チェーンとも前年を上回っている。
		家電量販店（経営者）	お客様の様子	・購入される商品が、安物と付加価値の高いものに二極化しているが、高付加価値商品の販売が増えてきた。
		家電量販店（企画担当）	来客数の動き	・全体的に客数が多くなっている。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・平日、土日を問わず客の来場が多くなってきた。
		都市型ホテル（総支配人）	販売量の動き	・団体客は前年より減少しているが、ビジネス客が増加している。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・台風、残暑、長雨は響いたが、動きは活発になっている。ビジネス需要も増えているようだ。
		タクシー運転手	お客様の様子	・物の動きが少し活発になった。それに伴い人も動くようになり、時間を節約するためにタクシーを使う人が若干増えた。
		通信会社（業務担当）	販売量の動き	・台風の影響で平日は販売数が落ち込んだものの、週末は集客のためのイベントやチラシでの告知により、平日に比べ販売台数が大きく伸びた。
変わらない	変わらない	商店街（代表者）	それ以外	・単価の動きも、物の動きも悪い。
		一般小売店〔青果〕（店長）	競争相手の様子	・スーパーのバイヤーたちの話では、状況は変わらないということである。
		一般小売店〔茶〕（店長）	来客数の動き	・近くに大型スーパーができたことに加え、台風も影響し、来客数に影響がでた。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・福岡天神地区の消費は一進一退であり、婦人衣料等上向き始めた部門もあるが、台風の影響もあり、全体としては回復には程遠い。
		百貨店（業務担当）	お客様の様子	・これまでコーディネート販売を強化しており、複数点買う客が多かったが、今は客の選択消費が徹底し、単品で、しかも必要なものだけを買う傾向にある。
		百貨店（営業企画担当）	来客数の動き	・市内大型量販店のオープンから1年を経過し、影響も一回りしたと思われるものの、台風の影響や、福岡都心部の集客効果の拡大で客数の伸び悩みが続いている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・衣料品が非常に不振で、全体の足を引っ張っている。台風の影響が非常に大きい。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・先月は客数は増えているが、1人当たりの買上点数が前年比90%であり、客単価が落ちている。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・台風の連続上陸によって売上減もあったが、台風の前後の需要増もあった。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・依然として買上点数が低く、客単価が低迷している。特に米飯等において低価格傾向が顕著である。
		衣料品専門店（総務担当）	お客様の様子	・立て続けに台風が上陸し、臨時店休した関係で、売上が減少している。夏物商品がさばけていない。

	その他専門店 [ガソリンスタンド] (統括)	販売量の動き	・ガソリンの店頭価格は、メーカーの仕入価格値上げもあり9月も値上げとなったが、販売量は前年に比べ横ばいもしくは若干上回っている。要因として、9月に入っても引き続き残暑が厳しいことが考えられる。また、客にハイオクを勧めると、つきあいで購入してもらえる。
	その他小売 [雑貨卸] (総務担当)	販売量の動き	・台風に関連する特需が若干あったが、景気を押し上げる力はなく、現況維持が精一杯である。
	その他飲食 [居酒屋] (店長)	お客様の様子	・鹿児島中央駅の駅ビルが開店して流れがすっかり変わった。このままでは2~3か月、天文館はしばらく客待ちの状態が続く。夏の暑さが続き、客もちょっと疲れた感があるのか、客足がぐんと少なくなった。
	旅行代理店 (従業員)	お客様の様子	・旅行者は、海外を含めあまり遠くに金をかけないという傾向がみられる。
	観光名所 (職員)	来客数の動き	・観光施設については、入園者が前年より6%多くなっているが、この数字は前々年度、もしくはその前と変わらない数字であり、今後も特に増えそうな気配はない。ゴルフ場については2度の台風により同30%近い減少となった。
	競輪場 (職員)	来客数の動き	・発売単価は横ばいにもかかわらず、入場者が減少している。
	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・決算月であり、客に対して営業を積極的に行ったため、客の決断は早かったようである。しかし、客数自体が増えていないため、変化はあまりなかった。
やや悪くなっている	商店街 (代表者)	来客数の動き	・鹿児島中央駅の駅ビルがオープンし、大きく影響を受けた。
	商店街 (代表者)	来客数の動き	・台風の襲来で売上のほとんどない日が2日間あった。また、週末ごとに雨が降ったため商店街は来客数が少なく、非常に厳しい状況である。
	百貨店 (営業担当)	来客数の動き	・3か月前に比べ、更に街場への動員が減っている。6月に郊外に大型商業施設ができたことも要因かもしれないが、土日の来客が街全体で落ちている。
	百貨店 (売場担当)	販売量の動き	・月末になっても今一つ気温が低下せず、秋物商品が売れない。また、台風の影響で月末の重要な時期に売上を落としてしまい、販売量減の要因となった。
	コンビニ (エリア担当)	単価の動き	・今月は気温が下がり、ソフトドリンク等の飲料、アイスの売上が低下している。しかし、肉まんやおでん等の売れ筋の秋冬物商品が思うように伸びず、総合では売上が下がっている。夏場とは打って変わって、必要なもの以外は買わず、低単価商品のみが売れており、厳しい状況である。
	コンビニ (店長)	それ以外	・駅に立地していることから、台風により列車が全く動かなかつたため、客が来なく、売上も少なかった。
	衣料品専門店 (店員)	販売量の動き	・秋物は夏物より単価が上がるが、客は来店しても「また見に来る」という声が大変多く、販売量の動きが少し少ない。
	その他専門店 [書籍] (店長)	販売量の動き	・客単価が落ちている。特に高額商品の販売力が落ちている。
	高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・台風のためキャンセルがでたほか、来客数も非常に悪かった。
	都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・前年に比べ宿泊客が伸び悩んでいる。
	旅行代理店 (業務担当)	販売量の動き	・高齢者層の動きは堅調であるが、社会保険料の負担増や所得の伸び悩みなどの不安感からか、実際の旅行受注を含め前年を下回っている。
	タクシー運転手	お客様の様子	・台風の影響により昼夜とも人が少なく、行楽、レジャー客も少なかった。
	タクシー運転手	来客数の動き	・天候のせいと昼間のキャンセルが相次いだほか、夜の繁華街の客の出が大変悪く、売上が今までで一番悪い月になった。
悪くなっている	一般小売店 [青果] (店長)	単価の動き	・商品が台風の影響から高値となり、商いがやりにくい。
	衣料品専門店 (経営者)	それ以外	・客の着物離れが顕著である。

		乗用車販売店 (経営者)	来客数の動き	・来客数が全くない。フェアをしているが、通常であれば100台は売れるのに、最終日の段階でも32台である。景気はとても悪い。
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	農林水産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・年末食材の確保シーズンに入ることもあり、原料肉の引き合いがここ1~2か月とても強い。輸入物が入ってこないせいもあるが、注文に応じきれない状態である。スーパー、居酒屋関連もおおむね順調である。ただし価格面は厳しい。
		家具製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・全体的には相変わらず低価格傾向ではあるが、デザイン性の高い物や高品質な物も良く売れるようになってきた。
		窯業・土石製品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・荷動き、受注量ともに増えている。量販店の動きもいくらか以前よりいいようである。業者ごとに良いところと悪いところがある。
		建設業(総務担当)	受注量や販売量の動き	・台風の直撃を受け、いわゆる台風特需である被害復旧工事が生まれ、必然的に給料が増えた。
		輸送業(従業員)	受注量や販売量の動き	・7月後半~8月は荷扱量は伸び悩んだが、9月は台風の影響を除けば4~6月と同様に荷扱量は多かった。
	変わらない	農林水産業(従業員)	受注価格や販売価格の動き	・今のところ輸入牛肉が入ってきていないので、現状はそう変わらない。
		窯業・土石製品製造業(取締役)	競争相手の様子	・当業界の競争相手や受注、取引先の様子等は、3か月前に比べ変わらない。
		一般機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・受注量はそこそこあり、景気の不安感はないが、コストが大変厳しい。体力勝負であり、先行きのキャッシュフローにとっても厳しさを感じている。
	やや悪く なっている	繊維工業(営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・原油価格の高騰からガソリンや灯油が値上がりし、非常に厳しい。
	電気機械器具製造業(経営者)	取引先の様子	・半導体関連は非常に動きが鈍くなっている。先行きについても読めない状況で、不透明さが増している。大手取引先も、先行きがわからないという態度を示している。	
	輸送用機械器具製造業(経営者)	受注価格や販売価格の動き	・材料価格が高騰し、収益を圧迫している。	
	経営コンサルタント	取引先の様子	・台風の影響で、実質的に2日程度の閉店状態を余儀なくされたところが非常に多く、売上は前年に比べ軒並み減少している。一部台風の影響による工事が発生し良いところもあるだろうが、全体的にはかなり不調である。	
悪く なっている	農林水産業(従業員)	受注価格や販売価格の動き	・2度の台風で県内の農林水産物の被害総額は500億円を超えており、農協にも販売できる農作物がない。	
雇用 関連	良く なっている	職業安定所(職員)	求職者数の動き	・有効求職者数は減少傾向にあるが、就職件数や就職率は前年を上回っている。新規求職者の離職理由をみると、解雇による求職が減少傾向にある。また、全体の約1割は在職者の申込であるが、その割合が増えており、退職希望による求職が増加している。
	やや良く なっている	人材派遣会社(社員)	求職者数の動き	・100名単位の募集案件であっても、前年の半数くらいしか応募がない。また、派遣の待機スタッフの中では、就業中のスタッフが多い。
		人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・求人数は、各業界総じて前年比、先月比ともに125%以上の伸びをみせている。
		新聞社[求人広告](担当者)	周辺企業の様子	・自動車製造等の好調な業種では新聞求人案内が増えているが、全般的にはまだ厳しい。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・新規求人が前年に比べ増加し、新規求職者が減少している。しかし、まだ景気が良くなっているとはいえず、現在の傾向が続くかどうかはわからない。
		民間職業紹介機関(支店長)	求人数の動き	・人材派遣の需要に加え、紹介予定派遣、製造工程等の事務系以外での求人数も増加傾向にある。直接募集・直接雇用の色合いが濃かった部分にも、外部人材を求める動きがより強くなりつつある。
変わらない	求人情報誌製作会社(編集者)	求職者数の動き	・例年9月は求職者の動きが活発になるが、今年は動きが鈍い。前年に比べ求人数が増えていることがあげられる。また、福岡ではコールセンターなどで大量の雇用が発生し、労働力が吸収されている。	

	求人情報誌製作会社（総務担当）	求人数の動き	・求人情報企業の掲載数が引き続き上向きである。当社の求人フリーペーパーの掲載企業とともに、インターネット求人での中途採用も伸びている。また、新卒採用についても企業の意欲は高まっており、新卒系採用サイトへの参加も順調な伸びをみせているが、伸び率は鈍化しつつある。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人増加の動きが少ない中で、新規求人に占める請負、派遣の求人の割合が40%を超えている。
	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求人が大幅に減少し、新規求職者が増加している。求職者については解雇等の会社の都合によるものの増加ではなく、転職希望等の自己都合によるものの割合が高い。
やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（経営者）	求職者数の動き	・当社の求人情報誌では、希望の求人情報を個人の携帯電話に配信するというサービスを行っているが、登録者数が2か月前に比べ倍になっている。これからも希望者は増えると思われ、求職者数は決して減少していないことを実感している。
悪くなっている	-	-	-